

## 実績確認概要書

平成 28 年 7 月 5 日

ビューローベリタスジャパン株式会社

### 1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	木質バイオマスボイラによる CO2 排出削減プロジェクト			
承認番号	KC0608			
排出削減事業者名	株式会社 松島			
排出削減共同実施事業者名	株式会社 FT カーボン (その他関連事業者名 : )			
事業実施場所	メトロポリタン松島 (住所 : 新潟県柏崎市鯨波乙 1828)			
事業の概要	本事業では、ホテルの加湿・給湯用のボイラと暖房用冷温水器を、木質ペレットボイラに転換することにより、灯油使用量 (CO2 排出量) を削減する。			
排出削減量の計画	方法論 001	方法論 004	合計	
	2010 年度	113t-CO2/年	51t-CO2/年	164t-CO2/年
	2011 年度	113t-CO2/年	51t-CO2/年	164t-CO2/年
	2012 年度	113t-CO2/年	51t-CO2/年	164t-CO2/年
	(国内クレジット制度実施期間合計 492t-CO2/年)			
	2013 年度	114t-CO2/年	52t-CO2/年	166t-CO2/年
	2014 年度	114t-CO2/年	52t-CO2/年	166t-CO2/年
	2015 年度	114t-CO2/年	52t-CO2/年	166t-CO2/年
	2016 年度	114t-CO2/年	52t-CO2/年	166t-CO2/年
	2017 年度	114t-CO2/年	52t-CO2/年	166t-CO2/年
	(J-クレジット制度事業実施期間合計 830t-CO2)			
J-クレジット認証期間	開始予定日 2013 年 4 月 1 日 終了予定日 2018 年 3 月 31 日			
排出削減方法論	方法論 001 「ボイラの更新」 方法論 004 「空調設備の更新」			

## 2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日～2016年3月20日（第4回目実績報告）

## 3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	方法論 001 : 484tCO2 方法論 004 : 264tCO2 合計 : 748tCO2 (2013年4月1日～2016年3月20日)
-------	---

## 4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減計画に従って実施した結果生じていること	1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 第4回目実績確認のため、該当なし。 2) 対象期間中の設備稼働確認 導入した木質ペレットボイラ設備は実績確認の期間中継続的に稼働していることを、事業者への質問、ボイラの燃料使用量、ボイラの使用実績等により確認した。  その他、本事業に承認排出削減事業計画から重要な変更がないことを確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていることを確認した  1) モニタリング方法の確認 事業者への質問、木質ペレット購買量の確認、木質ペレット分析データの確認等により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、モニタリングが実施されていることを確認した。  2) 活動量の正確性 活動量は使用していない。 また、木質ペレット使用記録、木質ペレット分析データの確

	<p>認等により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、報告期間にわたり、エネルギー使用量の記録・保存が適切になされており、正確に集計されていることを確認した。</p> <p>3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認 使用されている単位発熱量、排出係数等が、J-クレジット制度モニタリング・算定規定（別表）及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量は、排出削減量の算定結果を根拠資料と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。リーケージ排出量は、排出削減量の 5%未満であり、算定対象外であることを確認した。</p>
算定期間がクレジット認証期間の終了日を超えないこと	本実績確認の対象期間は、2013年4月1日から3月20日までであり、排出削減量を算定した期間が2018年3月31日を超えないことを確認した。

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価（該当する場合）  
なし

6. 特記事項

モニタリング期間における再生可能エネルギー利用量は、確認した排出削減量に相当する再生可能エネルギー利用量は熱量換算で方法論001が7,155GJ、方法論004が4,404GJ、合計11,559GJであることを確認した。

以上